

第8回 建設トップランナーフォーラム

「インフラの町医者を目指して」 議事録

日時：平成25年7月2日（火）9:30～

場所：建築会館（東京都田町）

○開会の言葉 日本青年会議所建設部会 部長 田井慶一郎

建設産業は、今大きな変革の時を迎えている。地域建設業においてこの変化にどう対応するかが大切である。今回のフォーラムで得た情報・知識をそれぞれの地域に持ち帰り、地域の特色を活かしながら新たな挑戦が各地で興れば、それが日本の発展に繋がると考える。

○開催趣旨説明 建設トップランナー倶楽部 代表幹事 米田雅子

建設トップランナー倶楽部は、平成18年の設立以来、地域建設業の「複業化」や新しい地域建設業の構築を目指し活動してきた。今年は「地域防災」、「インフラの老朽化」、「複業による産業創出」の3点に焦点をあてて、全国各地の代表的な取組みを発表する。

地域で活躍している建設業の良き刺激となれば幸いである。

○来賓挨拶 農林水産大臣 林芳正

建設業と農林水産業は切っても切れない関係である。地域に根付いた活動をされている地域建設業の皆様が、建設業の中で培ってきた経営のノウハウ等を農林水産業の中に活かし、地域の農林水産業を活性化することは、私が大臣就任以来展開を推進している「攻めの農林水産業」に繋がっていくと考える。

○来賓挨拶 内閣府特命担当大臣（国土強靱化、防災担当） 古屋圭司

国土強靱化とは、今後想定されている大規模な地震災害が発生しても、「命だけは守る」、「被害を最小限に抑える」、「速やかな復旧が可能となる」との基本方針のもとソフト・ハード面で検討（リスクアセスメント）を進めることである。

各事態を回避するために必要な各施策をプログラム化し、優先順位をつけて実行していく。優先順位を決めるのは大変な作業だが、まずは各自治体で考えている優先順位をヒアリングすることから始め、その内容について閣僚を本部員とした国土強靱化対策本部の中で決定していく。（縦割りではなく省庁横断で「オールジャパン」検討する）

○第1部 連携が新しい価値を生む

「建設と介護の複業化」セントラル建設(株) (岐阜県)

- ・建設業と介護は地域密着の点で共通している。
- ・介護用品のレンタル事業のメリットとして、レンタル単価を自分で決められる点がある。
- ・多くの方が介護のハード面から入ってしまうが、介護用品のレンタルから始めることで少しずつ信頼を得て、リフォームまで任せてもらえるようになった。
- ・これからの建設業は、ものをつくるだけでなく、地域の困りごとやニーズをつかみ、不安や不満を解消し、快適な住み方を提供していくことも必要である。

「環境・エネルギーへの展開」中村建設(株) (静岡県)

- ・廃校となった学校用地を活用(賃貸)し太陽光発電事業を行うものである。
- ・施設の中に防災倉庫や緊急時ヘリ着陸スペースを設ける等、地域防災も考慮した計画としている。また、地域の子供たちへの現地見学説明会や発電状況が分かる電光パネルを設置するなど、環境教育の場としても活用が期待できる。
- ・売電基金の一部を積み立てて、地域の学校や自治会等へ環境整備のための寄付金として拠出予定である。
- ・地域の実情を知っているからこそ様々な提案ができたと思う。

○第2部 複業により地域を活性化する

「地域ブランドへの挑戦」植村建設(株) (北海道)

- ・先代が建てた倉庫を活用し民間型道の駅「よりみちの駅」をオープンさせた。
- ・当初は様々なサービスを提供したが、展開させすぎて地域の特性を見失ったことから、ゼロから見直し、地域の食材を使用した加工品の企画・製造・販売を行っている。(商品の値段は高価になるが、その価値についてパンフレット等にて伝える工夫を行っている)
- ・企画においてはプロには頼らず、地元の知恵を集結している。

○第3部 災害から地域を守る

「東北復興の現状と課題」(株)深松組 (宮城県)

- ・東日本大震災後の建設業の対応として「知られていない活動」がある。水産物の海洋投棄や仮埋葬等作業である。(自治体より警察、消防等へ依頼しても業務外と断られ、最終的に建設業協会に依頼された)
- ・仮埋葬作業に従事した人はPTSDによりその後退職してしまった方もいる。
- ・今後予想されている南海トラフ地震や、首都直下型地震の後においてもそのような作業が生じることを全国の建設業に認識してもらい、今のうちから体制を構築するべきと考える。(日常的に行っていないことは、いざというとき行えない)
- ・宮城県で今一番混み合っているのが心療内科である。1日に120人程度が受診しておりその約4割が建設業者、残りの大多数は役所関係の人と聞いている。
- ・インプレスライドの書類作成が大変との話がある。現場の実態に合わせた歩掛補正が必要である。

「地域建設 BCP の提案」日本青年会議所建設部会

- ・全国で BCP を策定している建設業者は約 1 割である。課題としては策定するスキル、ノウハウ、人手がないことが挙げられる。今後策定の手引き等を作成し広めていきたい。
- ・元請だけでなく、下請、資材屋、リース屋まで一体となった BCP を策定しないと効果が出ないと考えている。(ネットワークの構築)
- ・橋が流されたらどうするか等、シビアな計画とすることで実効性が上がると思う。

○第 4 部 老朽化から社会インフラを守る

「知床におけるエゾシカ事業」斜里建設工業(株) (北海道)

- ・町内全道路の維持・除雪業務を請け負っている。地域の道路は斜里建設で守るという責任、自負を持って取り組んでいる。
- ・除雪作業にあたり、先発する除雪重機作業の危険回避のため GPS 施工システムを開発した。GPS により地形および積雪状況をデジタルデータ管理し、データに基づいて重機を自動制御させることで、安全性、管理の効率化を実現した。(3cm オーダーの情報取得ができる)

「岐阜県メンテナンスエキスパート」丸ス産業(株) (岐阜県)

- ・社会基盤メンテナンスエキスパートとは、新たな社会資本の整備、既存社会資本の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し、地域の活性化に貢献する総合技術者である。
- ・岐阜大学と岐阜県による人材養成ユニットを修了し認定された技術者を ME(メンテナンスエキスパート)と呼んでいる。(平成 20 年より開始)
- ・カリキュラムは 20 日間 80 コマの演習や実務であり、最終的に論文試験等の結果により認定が決まる。(平成 25 年までに 170 人認定：うち 59 名が建設業者)
- ・活動として、ME を市職員を対象とした橋梁点検研修、各種講演会への講師派遣を実施している。

「青森県橋梁アセットへの取り組み」(株)中綱組 (青森県)

- ・青森県では、県内を 6 地域に分割し橋梁維持工事を発注している。(発注方法は簡易公募型プロポーザル方式)
- ・業務には、点検、清掃、維持工事、緊急措置、小規模工事、追跡調査が含まれている。
- ・エリアを包括して維持業務を行うことで、地域の橋を守るという責任が生まれた。
- ・業務を通じて得た知識を活かし、新設橋梁設計時において、点検や補修が容易となるような提案ができればよいと考えている。

○パネルディスカッション「インフラの町医者を目指して」

パネラー 岐阜県知事 古田肇

国土技術センター国土政策研究所長 大石久和

(株)愛亀 社長 西山周 (愛媛県)

日本青年会議所建設部会長 田井慶一郎 (千葉県)

コーディネーター 慶応義塾大学特任教授 米田雅子

地域防災について

(米田) 震災後4時間以内に、約6割の建設業が活動開始している。地域防災の観点から見ても建設業は重要な役割を担っている。

(大石) 地域建設業の方に伺うと、災害が起こると自動的にスイッチ(何かしなければいけない)が入るとのことである。

これは、日本特有の地域コミュニティ文化からきているもので、地域のことは地域で守るという感情からくるものと考えられる。

(古田) 災害時の建設業の初動体制の早さにはいつも関心している。

役所側の体制が整う前に土嚢積み等の活動をしている時もあるなどスピーディーである。

このような建設業の活動をPRする必要があると考える。

(大石) 公共事業を削減するとしていた前政権のままでは危なかったと感じている。(地域建設業が減少することで地域防災力の減少に繋がる)

老朽化対策について

(大石) 笹子トンネルの事故を見ても、今後においては維持管理までを設計思想に入れることが必要である。また、市町村には技術者が不足しているため、地域建設業がメンテナンス等の知識を持つ必要がある。

(古田) 岐阜県においては、ME(メンテナンスエキスパート)を活用した点検から設計、補修までを一体とした発注を検討している。

(丸ス) 今までの業務からノウハウは蓄積されている、そのような一体型の業務があるのなら、ぜひチャレンジしたい。

複業化について

(西山) 地域の雇用を守る、地域を活性化させるためには情熱が大事。複業化においても、全てを柱(本業)として取り組むことが大切と考える。

(古田) 複業において販路拡大を検討していくことも大事である。売ることを考えて作る(複業にチャレンジする)ことが重要である。

(田井) 若者に魅力のある建設業にしていく必要がある。複業も大事であるが、本業、特に今後需要が増すメンテナンス業務で利益が生み出せる仕組み作りが重要と考える。

(大石) やはり地域を知ることが大事であり、地域の中で主体性を持って取り組むことが地域との新たな連携を生み成功につながると考える。